

2018年5月24日
トヨタ自動車株式会社
アイシン精機株式会社

フィリピントヨタ自動車部品株式会社をアイシンの子会社とし、社名変更 新たにAT部品の生産を開始し、更なる事業競争力強化を目指す

トヨタ自動車株式会社(以下、トヨタ)、およびアイシン精機株式会社(以下、アイシン)は本日、マニュアルトランスミッション(以下 MT)事業の競争力強化を目指し、トヨタの子会社であるフィリピントヨタ自動車部品株式会社(以下、TAP)へのアイシンからの出資比率を現状の34%から61%に引き上げ、アイシンの子会社とすることに合意した。今後はアイシンが主体となってTAPの事業運営を行い、社名を「トヨタ・アイシン・フィリピン株式会社」に変更する。

トヨタとアイシンは、2014年11月に「アイシンの100%子会社であるアイシン・エーアイ株式会社(以下、アイシン・エーアイ)、トヨタの2社にまたがるMT関連機能をアイシン・エーアイに集約し、リソースの最適配分、競争力強化を目指していく」ことに合意。量産車向けMTの開発機能および国内生産の集約・移管を2017年1月までに完了した。海外でのMT事業についても、2016年1月にアイシンがTAPに一部資本参加し、事業運営に参画してきた。

TAPは今回の変更により、グローバルに業界屈指の技術力、トランスミッションラインナップを持つアイシンの子会社として、その専門性や知見を活用しながらいっそう効率的に生産すべく取り組んでいく。

具体的にはアイシン・エーアイの拠点からMT生産の一部をTAPへ集約して稼働率を高め、さらには約12億フィリピンペソの投資を行い、今までの技術・ノウハウを活かしながらオートマチックトランスミッション部品の生産も新たに開始することで、トランスミッションの競争力強化に向けた取り組みを加速させ、TAPの事業拡大を目指す。

TAPはこれまで、トヨタにおけるMTのグローバル供給拠点の一つとして高品質なMTを生産してきた。また、2008年に約56億フィリピンペソを投じて生産能力増強を行うとともに、2015年に約25億フィリピンペソを投じて新型6速MTの生産を開始するなど、フィリピンで着実に投資、雇用、事業を拡大してきた。今回の取り組みを通じ、TAPはより魅力的なトランスミッションをお客様にお届けするとともに、「町いちばん」の企業としてフィリピン社会・経済にいっそう貢献していくことができると考えている。

トヨタとアイシンは、今後もパワートレインの最適な生産体制の構築や新製品開発などで連携をさらに強化し、グループ一体となってパワートレイン事業の競争力向上を推進していく。

<新旧会社の概要>

	新	旧
会社名	トヨタ・アイシン・フィリピン株式会社	フィリピントヨタ自動車部品株式会社
所在地	フィリピン ラグナ州 サンタロサ市	
代表者	取締役社長 福谷 浩志	
資本金	10 億ペソ	
資本比率	アイシン精機(株):61% トヨタ自動車(株):34% トヨタ・モーター・フィリピン:5%	トヨタ自動車(株):61% アイシン精機(株):34% トヨタ・モーター・フィリピン:5%
売上高	91 億 6,700 万ペソ(約 200 億円) (2017 年度実績)	
設立/生産開始年月	1990 年 8 月/1992 年 9 月	
主な事業内容	MT、等速ジョイントの製造	
MT 生産量	約 23 万基(2017 年度実績)	
従業員数	約 1,350 名(2018 年 3 月現在)	

※通貨については 1 フィリピンペソ=2.18 円にて円換算